

衆議院 青少年問題に関する特別委員会



衆議院議員
堀内のりこ

平成26年5月22日 衆議院分館2階 第13委員会室

青少年とインターネット

スマホの世界、今、何が起きているのか、
子供と学校そして家庭のかわり

○堀内委員 自由民主党の堀内詔子でございます。本日は、お忙しい中、青少年問題に関する特別委員会にご出席くださり、ありがとうございます。

現在、インターネット世界が、世界中の現実の環境を席卷するような形で急速に広がっております。二十一世紀に入ってから十年間で、世界のインターネット人口は三億五千万人から二十億人となり、現在は三十億人を超えると言われております。二〇二五年には、世界人口の八十億人のほとんどがオンラインでつながると予想されます。

このような中、若い世代のほとんどの人が、ネットにアクセスしないで一日を終えることができない状況です。例えば、私には社会人と高校生の二人の息子がおりますが、二人とも、数年前までは、メールを使って学校のゼ



ミや部活の連絡をし合っております。けれども、今はLINEで行っています。メールだと、一斉に会話ということがないので、忙しいときには見ないで過ごしておりましたが、LINEだと、話がほかの参加者の中だけで、自分を抜きで進んでしまう場合があるので、時々チェックする必要がある、見る回数が増えたように感じております。またパソコンは、普通に一家に一台あれば十分ということで、我が家では食卓の脇にありましたので、親が気軽にのぞけましたが、スマホだと

時代のうねりの中で
翻弄される子どもたち

そういうわけにもいきません。

このように、子どもたちが自宅で傍らにいても、外部とどんな連絡をとり合っているのか把握しにくい、そういった状況になってきています。どんどん進んでいくITの技術と、それのみ込まれそうな子どもたち、この状況を目の当たりにして、何とかしなければという思いを抱く方々は多いと思っております。

けれども、一方で、発達する情報技術によって、子どもたちが多くの恩恵を受けているというのも事実です。例えば、遠くに引越してしまつた友達とネットで連絡をとり合ったり、忙しくて受けられない検定試験を自由な時間と場所でネットを利用して受験できたり、また、外国への留学試験の面接をスカイプで受けたり、ハーバード大学の授業を映像で聴講することもできます。

今までさまざまな制約で奪われていた学ぶ機会を、ネットというツールを使えば、その壁を簡単に乗り越えて手に入れることができるようになりました。

確かに、今、ネットというものが長い間あった社会のあり方を根底から変えてしまっている、その渦中に私たちはいると思います。けれども、どんな時代にあっても、子どもたちというものは、時代のうねりの中で翻弄されつつも、それをたくましく乗り越えて、成長して、大人になってきました。現代のネット社会にあっても、自分をしっかりと持って、それと上手につき合う方法を身につけることが、子どもたちにとって人生を実りあるものにするということになると私は信じています。

大人たちが子どもたちと知恵を絞っていく、その方法について、今日お越しの先生方からさらなるご教示を賜りますようお願いいたします。それでは、大橋校長先生に質問させていただきます。

せていただきます。
先生は、刈谷市において、小中学校でのスマホの使用制限を提唱してくださいました。

私は大賛成です。ネットの長時間利用の問題については、青少年の健全な生活慣習の定着に向けた保護者への働きかけが必要だと思います。先ほど先生がお話しくださりましたPTAに配られたプリントの取り組みを保護者にさらに浸透させるには、どのような働きかけを行う必要があるとお考えでしょうか。質問させていただきます。

○大橋先生 ご質問にお答えします。今現在、本校では、実際に時間等も決めて利用している子どもたちは、約四割程度おります。ルール決めを再度認識というか話し合った家庭が、約七割程度です。まだまだ普及していません。子どもたちの中にも、自分は十時、九時でやめたんだけど、朝見ると百件または二百件くらい来ているよということがございます。

発達する情報社会と上手に付き合う知恵を子どもたちに伝える



千葉大学
藤川大祐教授

○堀内委員 ありがとうございます。全国的な規模に広がることを願っております。次に、藤川教授に質問させていただきます。子どもたちの持つ機器が携帯からスマホに変わり、子どもたちの生活にどんな変化がありましたか。また、そのことにより、どんな点により着目して注意をしていく必要があるかということについて、伺わせていただきたいと思っております。

○藤川先生 ご質問ありがとうございます。特にスマホの普及が、子どもたちの生活への影響は非常に大きくと考えられます。

今、さまざまな生活時間の調査に私は携わっているのですが、分かっていることは、子どもの学習時間は

減って減っていません。むしろ、増えている傾向がございます。そして、子どもの就寝時刻ですとか睡眠時間もあまり変わっていないくて、むしろ、早寝になつてきているということがございます。しかし、一方で、スマホを持つている子どもにつきましても、利用時間が非常に多いということもわかっております。何が減っているかと申しますと、テレビを見ている時間であるとか漫画を読む時間などの、他の娯楽の時間がかなり減つて

ます。それは、グループが何十人もいますので、すぐに件数が増えることもございます。

今度、また六月にPTAさんの行事で、これは実は、あまり私どもが出ようという気はございません。やはり、あくまでも親御さんの組織で、親御さんという気持ちがございますので。PTAの方で、六月二十日に親子触れ合いトークということ、警察署の方に、補導の危険性とか、また注意事項をお話いただき、



刈谷市立鷹が音中学校
前校長 大橋普支俊先生

その後、親同士の座談会みたいな井戸端会議のところで、うまくやっている家庭の知恵、うちはよくやれていないというようなことを話し合っていたら企画をたてており

いるということが分かってきております。ですから、なかなかこれは解釈が難しいのですが、一般的な傾向としては、娯楽の要素が変わってきたというふうにつま、子どもたちの多くは、生活時間に何か非常に深刻な問題が生じているとは言えないということなんです。他方で、依存というようなことが指摘されておりますが、これは一部の極端な状況のお子さんのことでございます。

極端な状況のお子さん、例えば、家庭環境があまりよろしくないとか、性格特性等からのめり込みやすいとか、そういったお子さんについては、今まで以上に依存しやすいう状況というのが生じていることが考えられますので、ここはまだあまり調査がないんですが、今後注意をしていかななくてはいけないところかなというところでございます。

まとめますと、全般的には、娯楽の要素が変わってきているということについては慎重に見守りたい、一方で、一

部のお子さんについては危険性が高まっている可能性がありますので、慎重に見ていきたいというのが私の見解でございます。以上でございます。

○堀内委員 ありがとうございます。先生の取り組みが全国的な規模に広がることを願っております。子どもたちの全般の生活時間については大きな変化がないというお話を伺いまして、大変安心いたしました。次に、安川理事長に質問させていただきます。

スマホが青少年に普及していく中でインターネットの危険性や、特に



をわからない子どもに育てているということなんです。勉強のときも、無料通話アプリをしながら勉強している。頭に入ってくるはずがないんですね。お互いに足を引っ張り合って、睡眠不足になる。これも友達がやることでは



情報モラルの注意喚起について、より定着を図るためには、安川理事長さんはどうな方法があると考えられますか。

○安川理事長 まず、基本的なことなんですけれども、家庭の問題ですよね。ご飯のときでも、ゲームしながらとか、無料通話アプリで遊びながら、ご飯を食べている。それを許しているということ。これが、もう人の気持ち



全国 web カウセリング
協議会理事長
安川雅史 様

ている先生方がしっかりとした情報モラル教育をする力をつけていくということが今後必要になってくるかな、それによって子どもたちが健全に育っていくことができるんじゃないかなというふうに考えています。以上です。

○堀内委員 ご所見、ありがとうございます。次は、道具社長に質問させていただきます。

先生方からもフィルタリングについてのご意見がございましたが、その設定の利用方法が保護者から見ても複雑でわかりにくいように思えます。事業者の責務として、企業でどこまでコストをかけて周知、普及させるべきだとお考えでしょうか。

○道具社長 私ども、年間百回ほど自治体、また学校、PTAの皆様に対して、啓蒙活動とあわせて、今のフィルタリングの何が悪いんだろっか、何が使いづらいんだろっかというヒアリングをさせていただいてお



デジタルアーツ株式会社社長
道具登志夫 様

ります。それをもとに、年間約二回から三回、ソフトウエアの改善をさせていただいております。

ただ、おっしゃるとおり、それでも現実のご両親のIT知識というのは、今のソフトウエアと一致しているかという点、まだまだメーカーとして改善する余地はあると思っております。引き続き、ご利用いただける保護者の方々の意見を伺いながら、日々改善していきたいと考えております。

○堀内委員 ありがとうございます。続きまして、全ての参考人の先生方にそれぞれお答えいただきたいと思っております。

インターネット環境が日々進化しております。この激変の中で、保護者といえども、どうにか子どもたちを守ろうと一生懸命頑張っているところがございますが、一方、この進化が、子どもたちにはついていけない変化であっても、大人たちについては、日々の生活の中で、その新しいツールについていくというこ

とが大変厳しい状況になってきております。場合によっては、親が子どもたちにフィルタリングの方法を聞きながらする、そういった逆転の状況が生じております。

それについて先生方のご所見を伺いたいと思っております。では初めに、安川様、お願いいたします。

○安川理事長 今は、やはり携帯ショップに行っても、ほとんどがスマホですよ。では、親は何を使っているのと聞くと、親は今までの携帯です。でも、子どもにはスマホを持たせています。包丁と一緒にですね。包丁の使い方も分からないで、子どもにも自由に使いなさいなんて渡すような親はいませんよね。一歩間違えば、人を殺すための道具にもなる、自殺の道具にもなる。そういうことをまず分かった上で持たせなければ

子どもにスマホを持たせる
なら、親も努力していく
必要がある

ならないので、やはり、子どもにスマホを持たせたいというのであれば、自分自身も、分らないではなくて、分かるように努力する。持たなければ分らないんですよ。子どもと同じ機種を持つということが大切だと思います。お互いに勉強して



いけばいいんじゃないですかね。フィリタリングに関しても、そうですね。実は、子どもたちは、フィリタリングをかけていても自分で外して行くと、外し方なんて幾らでも出ていますから。親はかけていますよと言っていますが、子どもに聞くと、親は知らないだけだよ、外しているよと。そういうことまで、親にちゃんとした知識があれば、分かるんですよ。分からないでは済まされる時代じゃないと思うので、やはり親も努力していく必要があると思います。以上です。



○藤川先生 私の意見でございますが、安川理事長もおっしゃったように、保護者は、当然責任があるわけでございますから、責任を自覚して一定程度学んでいただきたいというのが大前提でございます。特に、青少年インターネット環境整備法等に掲げられている保護者の責任については十分理解していただいて、フィリタリングをかけさせるとか、かけない場合にはきちんと責任を持って対応するといったことは当然であろうと思います。ただ一方で、思春期の子どもたちというのは、親に反発する時期でもあるわけでございます。これはもう正常な発達がそういうふうになるわけでありまして、そうしますと、親からだけ言われてもなかなか難しいということがございますので、大人は大人でネットワークを持って、PTA等で話し合いをし、親以外の大人からも話を聞くとか、あるいは意見交換をするとか、そういったさまざまな対話の場が必



要ではないかなということも一方ではございます。

親だけが一人で抱えるのではなくて、大人がみんなで考えていく、子どもと対話をしていくということが重要ではないでしょうか。

○大橋先生 大変難しい問題で、実は、子どもに差がございませうように家庭にも大きな差がございませう。学校でこういった場を、先ほど申し上げ

親子間、子どもと学校との間に信頼関係をつくっておくことが一番大事

げました触れ合いトークでもそうですけれども、本来に来ていたきたい保護者の方は、残念ながら欠席が多いんです。ですから、いろいろな場を設けて普及することも当然大事なんですけれども、やはり最終的には、親と子が常によく話し合っているの携帯だけじゃなくていろいろなこと、親と子が常に話し合っていることで、親と子が親の愛情を感じて育っていくことが大事であって、そうすれば困ったときに相談もできますでしょうし、それから、学校を始めとする子ども子どもを取り巻くところが、常に子どもたちに、いつでもおいで手を差し伸べるよということを子どもにも知らしめるというか、そういった信頼関係をつくっておくことが一番大事なのかなというふうに考えております。

答えにはなっていないかもしれませんが、根本的にはそこにあるんじゃないかなというふうに考えております。以上です。

○道具社長 私たち、年二回、定期的に親御さんもしくは未成年者にアンケートをとっております。先日、未成年者に、要は子どもたちですね、アンケートをとった結果では、何でフィリタリングを外したいと思うのかというアンケートで、私たちは別にアダルトサイトを見たいと思っていない、だけれども、何でこれがブロックされるのかかわらないと。例えばSNS。実は、SNSというのは、小中学生では、今標準ではブロックの対象になっているんですね。ですので、携帯を買ってきても、フィリタリングを入れて、例えばLINEをやろうと思うと、最初は使えなくなっているんですね。お母さん、何でLINEはダメなのとなってしまっている。これは、フィリタリング業者として、今、すごく悩みです。では、LINEがいいものなのか悪いものなのか、デフォルトで使っていないとするのか、しちやいけなないのか。実は

今現在、小中学生は使つてはいけな
い設定が標準となつており、高校生
になつたときに、標準で使えるよう
になつていきます。ですので、それ
をきつかけに、何でこれを使つちや
だめなの、せつかく携帯を買つたの
に、オフになつている。PTAの連
絡が今LINEで来たりするので、
目の前でお母さんはLINEを使
つている。そうすると、目の前で
お母さんはLINEを使つているの
に、何で私は使つちやいけないの、
そんなだめなものだったら、お母さ
ん、使つちやだめじゃないのと言わ
れると、ご両親は何も言えないんで
すね。この辺り、何をオーケーとし
て何をだめにするのかということこ
ろが、今、私どもフィルタリングの
業界の中では、一つの課題ではあり
ます。

それがフィルタリングの利用率
の低下の一つの要因でもあるので
はないかなど。そのあたり、どうい
うことをオーケーとしないのかと

いうのは、家庭の親子間の教育ルー
ルづくりにもありますけれども、私
ども、最初にデフォルトでフィルタ
リングを設定する業界としても、ど
こまで何を許すのかということをも
めて見直さなきゃいけないのかなと
いうふうに考えております。



○堀内委員 ありがとうございます
た。激動の時代にあつて、私たちは、
新しい技術や道具を正しく使つて、
社会をよりよく、より豊かにするた
めに、最大の努力を重ねていかなけ
ればなりません。未来に、青少年の
明日に何が起こるかは、機械ではな

く、私たち人間の手にかかっている
という気持ちを強く持ちながら、質
問を終わらせていただきたいと思います。
本日は、ありがとうございます
した。